

環境保全行動  
自動車使用管理実施 報告提出書

2024年 5月 22日

(宛先) 札幌市長

提出者 住所	〒061-2302 札幌市南区定山溪温泉東3丁目271-1
氏名	定山溪万世閣ホテルミリオオーネ
(代表者名)	濱野 清正
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	

札幌市生活環境の確保に関する条例 第13条第4項の規定により、環境保全行動  
第23条第3項の規定により、自動車使用管理実施  
報告書を提出します。

報告期間	2023年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日								
事業の規模	従業員数	149	人	原油換算した	1760.3	kl			
	使用床面積	34268	m <sup>2</sup>	燃料・熱・電気の合計量					
	事業所数	1	事業所	自動車使用台数	4	台			
	温室効果ガス排出量 (二酸化炭素換算排出量)	エネルギー起源CO <sub>2</sub>	4300	t-CO <sub>2</sub>	メタン	t-CO <sub>2</sub>	N <sub>2</sub> O	t-CO <sub>2</sub>	HFC
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>			t-CO <sub>2</sub>	PFC	t-CO <sub>2</sub>	SF <sub>6</sub>	t-CO <sub>2</sub>	NF <sub>3</sub>	t-CO <sub>2</sub>
報告書の担当部署	担当部署名								
	担当者氏名								
	電話/FAX								
	電子メールアドレス								
計画書提出根拠	条例第13条(環境保全行動計画)	<input checked="" type="checkbox"/> 第1項 <input type="checkbox"/> 第3項							
	条例第23条(自動車使用管理計画)	<input type="checkbox"/> 第1項 <input checked="" type="checkbox"/> 第2項							
計画期間	2021年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日								
環境保全行動 自動車使用管理実施 報告書	別添のとおり								
備考									

- 注 1 従業員数、使用床面積及び自動車使用台数は、報告に係る年度の3月31日現在で記入してください。
- 2 事業所数は、報告年度に係る年度の3月31日現在の札幌市内事業所数を記入してください。
- 3 燃料・熱・電気の合計量は、報告に係る年度に使用した量を原油換算して記入してください。
- 4 原油換算の方法は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則第4条に規定する方法により行ってください。
- 5 温室効果ガス排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律第2条第5項で規定する方法により、二酸化炭素排出量に換算したものを記入してください。
- 6 のある欄には、該当する内にレ印を記入してください。
- 備考 この様式により難しいときは、この様式に準じた別の様式を使用することができる。

別添

環境保全行動報告書  
自動車使用管理実施報告書

1 行動目標の達成状況

【計画期間】

2021年 4月 1日～ 2024年 3月 31日

【報告期間】

2023年 4月 1日～ 2024年 3月 31日

行動目標	基準数値	目標削減率	2021年度結果			2022年度結果			2023年度結果		
			実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果
温泉熱の有効利用	397	40	241	39	△	300	24	△	410	▲ 3	×
	kℓ	%	kℓ	%		kℓ	%		kℓ	%	
設備更新(ボイラー)	206	30	241	▲ 17	×	300	▲ 46	×	410	▲ 99	×
	kℓ	%	kℓ	%		kℓ	%		kℓ	%	
設備更新(キュートン)	4728	▲ 8	4330	8	○	5343	▲ 13	×	4893	▲ 3	○
	Mwh	%	Mwh	%		Mwh	%		Mwh	%	
CO2排出量の削減	4156	10	3589	14	○	4030	3	△	4019	3	△
	t-CO2/Mwh	%	t-CO2/Mwh	%		t-CO2/Mwh	%		t-CO2/Mwh	%	
		%		%			%			%	
		%		%			%			%	

注 1 実績数値が基準数値よりも増加した場合は、削減率の数値の前に▲を記入してください。

2 結果の欄には、以下のいずれかを記入してください。

○：目標削減率を達成

△：実績数値が基準数値よりも削減されたが、目標削減率は未達成

×：実績数値が基準数値よりも増加

2 行動目標達成・未達成の理由

行動目標	結果	理由
温泉熱の有効利用	×	前年対比で115%の利用客増員となった為、熱回収の効果は出ているものの根本的な消費量が増加した事による影響。暖房にエネルギーを消費している事も影響している。
設備更新(ボイラー)	×	電気代の高騰により、電気による暖房・給湯の維持を燃料で補う管理へ転換した事による影響。(利用客数の増員も影響している。)
設備更新(キュートン)	○	電気代の高騰により、電気による暖房・給湯の維持を燃料で補う管理へ転換した事による影響。また、プールの営業期間短縮(休業)や電動機の停止等の削減も追加要因。
CO2排出量の削減	△	電力使用量を抑え、燃料による運用に転換した事によりCO2排出量が目標値を僅かに達成できなかった。